人文学学位プログラム（博士後期課程）
Doctoral Program in Humanities

■ 博士（文学）
■ Doctor of Philosophy in Humanities

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人文学の研究・教育を取り巻く環境の変化及びグローバル化に伴う社会の変化に対応するため、哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学などの人文学諸分野における国際的レベルの高度な研究・教育能力を有すると共に、地球規模の新たな問題の発見と解決をめざし、領域横断的な研究を遂行し、学際的な研究・教育に従事できる大学教員、研究者等を養成する。

養成する人材像	人文学諸分野に関する高度な専門的知識を身につけ、独創的な研究を自立して遂行する能力を有し、現代の諸問題を解決するための広い視野を有する人材。
修了後の進路	研究職・教育職（大学等の教員、研究所の研究員）。それ以外に、官公庁・自治体職員、国際機関職員、博物館学芸員、学術出版業、教育関連会社、NGO・NPO など。

人文学学位プログラム（博士後期課程）　／　博士（文学）
Doctoral Program in Humanities / Doctor of Philosophy in Humanities

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（文学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	大学院共通科目、研究指導科目、論文発表に関する科目、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、インターンシップ科目、達成度自己点検、博士論文作成、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表、論文投稿等
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、中間発表、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	研究指導科目、演習科目、大学院共通科目（JAPIC 科目）、TA（大学院セミナー等）経験、プロジェクトの参加経験等
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目（国際性養成科目群）、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、外国語の講義科目、外国語の演習科目、外国語文献を利用した博士論文作成、国外での活動経験、外国人（留学生を含む）との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文投稿等

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	6. 研究力：人文学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	①人文学分野における先端的な研究課題を設定する能力を身につけたか ②人文学分野において自立して研究計画を遂行する能力を身につけたか	大学院共通科目、演習科目、研究指導、博士論文作成、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
	7. 専門知識：人文学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	①人文学分野における先端的かつ高度な専門知識を身につけたか ②人文学分野における専門知識の総合的な運用能力を身につけたか	大学院共通科目、演習科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、論文投稿、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
	8. 倫理観：人文学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	①人文学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識を身につけたか ②専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身につけたか	大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、演習科目、研究指導、博士論文作成、中間発表、INFOSS 情報倫理、APRIN e-learning 等
	9. 思考力：専門分野に関する知識及び関連する分野に関する深い学識をもとに、物事を論理的に考え、結論を導き出す能力	専門分野に関する高度な知識及び関連する分野に関する深い学識をもとに、物事を論理的に考え、結論を導きだす能力を身につけたか	演習科目、博士論文作成、学会発表、研究会発表、ポスター発表等
	10. 総合力：研究成果を人 文知の中に位置づけ、広範な視野で研究を遂行する能力	研究成果を人文知の中に位置づけ、広範な視野で研究を遂行する能力を身につけたか	大学院共通科目、演習科目、他学位プログラム科目演習科目、研究指導等

学修成果の評価に関する方針	– 学修成果の評価は、学位授与方針に基づくコンピテンスの修得状況を「達成度評価表（ルーブリック）」により、各学期末、ならびに博士論文提出時点等に確認・評価することで行う。 – 1 年次、2 年次での博士論文指導に関わるゼミにおける指導を経て、2 年次後半に学会発表、論文投稿の状況、博士論文概要に基づき、主指導教員、副指導教員が中間評価を行う。 – 3 年次に博士論文構想の発表を行い、博士論文予備審査論文について、主指導教員、副指導教員が予備審査および、ルーブリックに基づき第一段階達成度審査を行う。 – 博士論文提出後、主査および副査 2 名以上で構成される学位論文審査委員会において公開審査、ならびに、ルーブリックに基づき第 2 段階達成度審査を行う。
学位論文に関する評価の基準	1. 研究テーマが適切に設定され、意義・位置づけが明確であること。 2. 関連する先行研究を網羅し、批判的検討を加えていること。 3. 研究方法が明確に提示されていること。 4. 論の構成が適切で、実証的、論理的であること。 5. 新たな学術的な知見が含まれること。 6. 学位論文として適切な形式を具え、研究倫理が順守されていること。 – 博士論文の審査は、主査 1 名、副査 2 名以上で構成される審査委員会を設けて公開で行う。

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学の 9 領域を横断する人文学の高度な研究力・先端的な専門知識・深い倫理観とともに、人文社会科学の幅広い基礎的素養、人文社会ビジネスにわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。

教育課程の編成方針	学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、大学院共通科目、研究群共通科目から 1 単位を履修することを推奨する。 – 大学院共通科目などにより、未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力を身に付ける。 – 大学院共通科目などにより、俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力を身に付ける。 – 大学院共通科目などにより、学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力を身に付ける。 – 大学院共通科目などにより、リーダーシップを発揮して目的を達成する能力を身に付ける。 – 大学院共通科目などにより、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲を身に付ける。 – 大学院共通科目、専門科目（演習科目）、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力を身に付ける。 – 大学院共通科目、専門科目（演習科目）、研究指導、博士論文作成、学会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力を身に付ける。 – 大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、専門科目（演習科目）、研究指導などにより、人文社会科学分野及び人文学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身に付ける。

人文学学位プログラム（博士後期課程）　／　博士（文学）
Doctoral Program in Humanities / Doctor of Philosophy in Humanities

教育課程の編成方針	– 専門科目（演習科目）、博士論文作成、学会発表などにより、専門分野に関する高度な知識及び関連する分野に関する深い学識をもとに、物事を論理的に考え、結論を導きだす能力を身に付ける。 – 専門科目（演習科目）、研究指導などにより、研究成果を人文知の中に位置づけ、広範な視野で研究を遂行する能力を身に付ける。
学修の方法 特色的な教育	– 入学時、加えて年度当初に、学生の個々の研究テーマに基づき「履修計画」および指導体制を設定し、授業履修、研究指導を行う。 – 各年次の演習科目を中心に、より高度で幅広い専門知識を得ながら、自らの研究を構築し、プレゼンテーションを行うことで、汎用コンピテンス「知の創生力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ力」「国際性」、専門コンピテンス「研究力」「専門知識」「思考力」「総合力」を身に付ける。演習科目とともに研究指導を通じて、専門コンピテンス「倫理観」を身に付ける。

入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	人文学諸分野への強い関心、研究課題に真摯に取り組む情熱、研究に必要な専門的知識、語学力、論理的思考力、論述力を持ち、専門性を追求するのみならず、自らの研究を人文学の中に位置づけ、学際的な新たな領域を開拓する意欲を持つ人材を求める。
入学者選抜方針	入学者の選抜にあたっては、一般入試を行う。 – 一般入試では、専門科目の筆記試験、並びに口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学など人文学に関係する分野から 1 つを選択し、外国語（1 カ国語）で書かれた専門文献を使った設問を含む出題を行い、人文学諸分野の研究に必要な専門的知識、論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に必要な語学力を判定する。口述試験は、提出された修士論文（ないしはそれに準ずる論文）や研究計画書等を参考としつつ、志願者の研究しようとしている分野の専門的知識、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。提出書類のうち、修士論文により、専門分野に関する論述力を判定する。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	– 学修の達成度を把握するため、すべての院生に対し学期毎にコンピテンス達成度評価表の作成・提出を義務付けている。指導教員は、院生から提出されたコンピテンス達成度評価表をもとに個別面接を実施し、汎用コンピテンスと専門コンピテンスの達成状況を確認しながら効果的な学修の進め方について指導を行っている。 – 履修規定等に履修モデルを明示し段階的かつ効果的な学修が達成できるよう工夫している。 – 論文提出に到るスケジュールを明示し、中間発表（ヒアリング）の後、予備審査委員会を立ち上げ、予備審査合格の後、本審査委員会を設置し、論文受理、公開審査を実施している。公開審査には、下級生も参加し、自身の研究や論文執筆の参考としている。 – 院生は、毎年度初めに主指導教員と面談し、研究計画書を作成し提出している。その後、院生は、主指導教員や関連する専門分野の教員と随時面談し、学位論文の作成に活かしている。 – 院生の博士論文提出条件である査読付き論文の学会誌掲載に向けて、主指導教員、副指導教員による稠密な指導を行っている。 – 一部のサブプログラム（SP）では、学会参加（研究発表）費用支援、他大学図書館雑誌論文コピー・図書貸借費用支援、外国語での発表（論文、口頭発表）原稿の語学支援（ライティングサポート、校閲）等を行っている。 – 一部の SP では、「海外研究プロジェクト実習」という科目を SP リーダー担当授業として建て、海外の国際学会参加や資料探索、協定大学への研究留学（超短期）などを単位化している。実施に際しては主指導教員の指導の下に作成して提出することを義務付け、履修者の学位取得に結びつく研究計画のなかで有効であるようにしている。 – 学振など外部資金による研究支援の申請を推奨し、主指導教員が申請書作成に当たってアドバイスを与えている。 – 各教員が実施する一部の授業では、国際会議に投稿するための英語アブストラクトの書き方、学術雑誌に投稿するための論文執筆指導を行っている。 – researchmap への研究業績の登録を推奨している。
学生同士の交流機会	– 博士論文執筆に関わる科目（ゼミ）において、修士を含む院生同士の研究上の討論を行い、各々の研究を深化させている。 – 院生主体の研究会や読書会が開催され、院生同士の研究交流を深めている。 – 一部の SP では、院生主体で運営、出版する雑誌の編集・刊行・配布を通じて、学生たちが自ら話し合いを実践している。 – 一部の SP では、学類生と院生合同の実習に際して、学類生指導の補助的な役割を通じて交流を深めている。 – 一部の SP では、院生主体のレクリエーションを開催し、院生同士の交流を深めている。 – チューター制度を中心として、留学生と日本人院生との交流を深め、日常的にも院生同士が協力し合いながら、安心して研究に取り組める環境を形成している。

教員との交流機会	– 新年度オリエンテーションを実施し、新入生を含めた院生と教員との懇談を行っている。 – 年間を通しての指導教員、副指導教員をはじめとする教員と院生との面談を随時行い、指導の充実を図っている。 – 院生と教員による「大学院懇談会（院生懇談会）」を開催し、学生からの様々な要望を受けとめたうえで、学修環境や学生生活の支援をおこなっている。 – 一部の SP では、学生選出委員と教員選出委員によるレクレーション実行委員会を組織し、あらたな枠組みのもとで、学生と教員の交流を図るより有効な機会の創出を検討している。 – 一部の SP では、学生の修了後の進路選択に役立てるため、研究職や専門職に就職した修了生などを講師とした公開講座を年に複数回開催し、院生、修了生及び教員による交流の場を設けている。

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

– 大学院担当教員の資格認定にあたっては、定められた基準と手続きにしたがって研究業績及び教育業績を精査し、十分な資質と能力を備えた教員を適切な担当業務（研究指導、研究指導補助、授業担当）に配置している。
– 授業科目のシラバス作成にあたっては、すべての科目のシラバスが適切に作成されているかをチェックシートを用いて確認し、教育の質の保証と改善に役立てている。
– 学修の達成度を把握するため、すべての院生に対し学期毎にコンピテンス達成度評価表の作成・提出を義務付け、個別指導を行っている。
– 各 SP の運営委員会、カリキュラム委員会等において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。
– 授業評価アンケートを実施し、その回答から授業計画、授業運営に関して改善を行っている。
– 複数教員が参加する論文指導ゼミや博士論文構想発表会を開催し、主指導・副指導教員以外の教員からの意見も得ることが出来るようにしている。
– 教育成果の可視化としては、口頭発表・ポスター発表・論文発表などの計画的な研究遂行を指導している。
– TA や RA 制度を活用し、教育・研究補助業務を通じて院生の教育・研究力向上とキャリア意識の醸成を図っている。